



波田まちづくり通信



波田まちづくり協議会サイト
「はたみみ.net」

スージーちゃん

スイカワくん

防災部長研修会 「地域力=防災力」を学ぶ

12月3日(火)、波田地区防災連合会は、奈川、安曇、梓川地区の同会と合同で、防災部長を対象に防災研修会を開催しました。

講師には、能登半島地震で支援活動を経験された松本市危機管理課の宮坂地域防災マネージャーをお招きし、『高めよ 防災力~その時に備えて』と題して、大規模地震発生後における避難の実態と、その時に一番必要になることは何かを学びました。能登半島地震では道路が寸断され、救援に必要な人や物がしばらく来ない事態となりました。そうした中で重要となったのは、「自助」と「共助」の二つの力だと講師は述べられました。まずは自分と家族の命を守るために行動し、次に地域住民同士で共に助け合い事態を乗り越えていくほかありません。阪神・淡路大震災の際、消防署や自衛隊などの「公助」の力で救助された方は全体の23%に対し、「自助」「共助」による救助は77%でした。発災後にいち早く救助を行えるのは地域住民であり、隣近所の普段のつながりが救助対応にも直結していきます。地域力がすすなわち防災力につながると熱く語っておられました。

防災訓練を行い災害に備えていくことはもちろん必要ですが、平時の町会活動を通じた住民同士の結び付きがいかに大切かを学んだ一日でした。

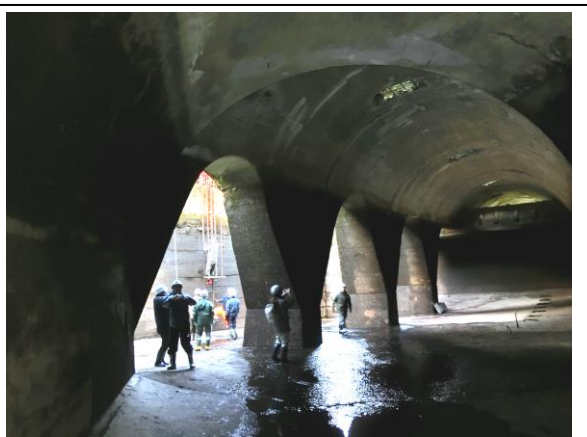


(重要となる三つの力の連携)

町会連合会役員 梓川ずい道を視察

12月11日(水)、波田地区町会連合会役員は、長野県梓川土地改良区主催の「梓川ずい道視察」に参加しました。

このずい道は、梓川頭首工から赤松頭首工の間を結ぶ用水路であり、昭和25年度に完成した内径約4m、延長約2kmのトンネルです。これまで修理や補強を続けながら大切に維持管理されてきており、現在は最大計画水量(34.5 m³/s)を流すことができます。取水した用水は、下流域の農業用水に利用されるほか水力発電にも利用されています。ずい道出口のアーチ状構造物は圧巻であり、まるで遺跡の中に入り込んだようでした。農業生産の向上に向け、先人の皆様の苦勞と努力により完成した施設です。地域に恵みをもたらしたこの施設に本当に感謝するばかりです。



(赤松地籍の梓川ずい道出口)

【波田循環バスをぜひ利用してみてください】

波田まちづくり協議会〔循環バス運行部会〕では、循環バス利用向上のため、先月の12月広報とともに「無料乗車券」を各世帯に配布させていただきました。

昨年度の利用者数は、便の見直しにより28%増加しましたが、今年度は現在のところ17%ほど減少しているのが実情です。

免許を返納された方や運転に自信がない方など、ぜひ一度利用してみてください。

